

情報ネット後志

NO. 7 2012年 1月

発行：後志農業改良普及センター

指導農業士の活動紹介

地域の話

平成22年度に成果の上った活動



平成23年の営農を振り返って

所長 金光 優

昨年の天候は春先の低温・長雨、夏場の干ばつ、9月の収穫期の長雨と異常な気象となりました。地球温暖化の影響とも言われる異常気象が多くなっています。農業は自然を相手にした産業です。このため日頃からの「備え」が重要です。自力で施工可能な排水対策、輪作励行等の生産上の備え、可能な限り適期作業ができる作業上の備え、収益性を改善し自己資本率を高める経営上の備え等が重要となります。職員一同、普及活動を通して関係する機関と協力し地力向上、生産力改善、地域力発現に寄与できる活動を展開します。

活躍する指導農業士

後志管内では26名が指導農業士として、市町村から推薦され、北海道知事から認定を受けています。指導農業士は農業振興への助言や、次代の担い手への指導を行い、地域農業振興に貢献しています。

後志管内指導農業士

(平成22年度の認定まで)

敬省略

地区名	氏名	認定年度	地区名	氏名	認定年度
余市町	越智 武士	昭和59年	俱知安町	原田 和夫	平成14年
余市町	森 元治	平成2年	俱知安町	大島 秀章	平成18年
余市町	川合 一	平成15年	京極町	小山 勇吉	昭和63年
余市町	野網 光春	平成20年	京極町	多田 修	平成15年
仁木町	新藤 勲	平成15年	留寿都村	玉手 要	昭和60年
仁木町	森 敬承	平成15年	留寿都村	秦 正樹	平成15年
赤井川村	野田 満	平成10年	真狩村	佐々木雄三	平成4年
赤井川村	二川 健司	平成10年	真狩村	石村 嘉彦	平成20年
小樽市	木露 正敏	平成21年	真狩村	石村 淳	平成20年
共和町	西本 茂	昭和48年	二セコ町	高橋 守	平成10年
共和町	高橋 孝三	平成9年	蘭越町	南 正雄	昭和60年
共和町	西本 峯雄	平成15年	蘭越町	下條 順一	平成19年
俱知安町	菅 豊次	昭和61年	黒松内町	居川 義信	平成17年



7月13日 北後志地区巡回懇談で普及センター所長に提言



11月11日 新規就農・研修生との交流会で新規参入農家へ助言

後志農業改良普及センター本所

住所 虻田郡俱知安町旭57-1
TEL 0136-22-1072
FAX 0136-22-4744
shiribeshi-nokai.1@pref.hokkaido.lg.jp

南後志支所

住所 寿都郡黒松内町字黒松内309
TEL 0136-72-3161
FAX 0136-72-3456
shiribeshi-nokai.minami1@pref.hokkaido.lg.jp

北後志支所

住所 余市郡余市町朝日町11番地1
TEL 0135-22-5135
FAX 0135-22-5987
shiribeshi-nokai.kita1@pref.hokkaido.lg.jp

平成 22 年度に成果の上があった活動

秋まき小麦「きたほなみ」の追肥技術の確立（京極町）

担当：本所 調整係

1 ホクシンからきたほなみへ 全面転換

H23 年産秋まき小麦から、後志管内全域で新品種「きたほなみ」の栽培が始まりました。「きたほなみ」は従来品種「ホクシン」に比べ多収ながら子実タンパクが低い特性を持ちます。そのため高地力ほ場を除き止葉期以降の追肥によるタンパクの向上が必要です。

2 普及センターのH22 年の活動

普及センターでは、栽培技術確立のための各種試験と、栽培技術の地域への定着を図るため活動を行っています。

H22 年は講習会、現地研修会、FAX情報の発信、戸別巡回を行い、適正追肥の定着をすすめました。

また京極町内の 10 戸の農家では定点調査ほで生育調査を行いながら施肥の目安を示し、生育に応じた施肥を行ってもらいました。



施肥試験ほの生育調査

3 H22 年の京極町における施肥、生産実績

京極町内では、作付農家 33 戸中 21 戸が止葉期以降の追肥を実施しました。10 戸の普及対象農家では生育状況に応じた追肥を行うことにより、10a 当り収量・販売代金は町平均を上回りました。タンパクはややばらつきが多いものの、止葉期以降追肥によるタンパク向上効果が確認されました。



現地研修会

	戸数	製品収量 (kg/10a)	町平均比	タンパク (%)	販売金額 (円/10a)	町平均比
町平均	33	371	100	10.9	16,708	100
止葉期以降追肥あり	21	377	102	11.2	16,777	100
止葉期以降追肥なし	12	358	97	10.5	16,579	99
対象農家	10	417	112	10.8	18,420	110

4 さらなる生産性の安定化に向けて

H23 年産秋まき小麦では、収量は平年以上でしたが細麦傾向となりました。要因としては一時的な多雨、登熟後半の高温が影響していますが、個別での収量・品質差が大きく、今後もよい地域にあった栽培管理方法を検討していく必要があります。

普及センターでは引き続き安定生産に向けた活動を行い、H24 年産では数ヶ所では種量比較試験も設置しています。活動結果は随時、地域の皆さんにお知らせしていきます。

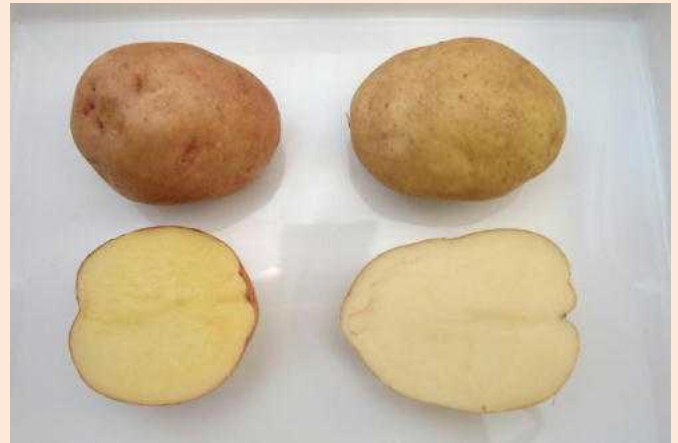
「いも新品種の定着はいかに・・・」

担当：南支所 地域係

普及センターでは、平成22年から、生食用馬鈴しょの農薬削減を目的として、病害虫抵抗性品種の導入に取り組んでいます。初年度は、黒松内町内で3品種「さやあかね」、「ゆきつぶら」、「男爵いも」を比較展示し、収穫物は様々な料理にし、生産者及び農業関係者の方々に試食評価していただきました。

平成23年は、直売を行っている生産者で栽培が始まり、町の体験農園でも、「ゆきつぶら」を栽培し小学生や幼児の食育活動を行いました。また、黒松内町女性グループネットワーク「虹」の協力を得て、3品種の加工適性の評価と販売調査を行いました。

「虹」は、町の特産品や農畜産物を使って食品加工や食育活動を行う、7グループ延べ45名の農村女性で構成されています。9月24日に行われた黒松内町道の駅フェスタでは、グループ名にちなんで名づけた黒松内産の7種類の具材（おから、黒大豆、野菜、ベーコン等）を詰め込んだ「レインボーコロケ」の販売を行いました。



左から「さやあかね」、「ゆきつぶら」



前日の仕込みは23時まで



500個2時間で完売

町内のイベントでしか購入できないため、販売開始前から列ができる人気。今年は過去最高の「さやあかね」150個、「ゆきつぶら」150個、「男爵いも」200個の計500個を揚げたてで提供しましたが、販売から2時間ほどで完売しました。

「「さやあかね」は、具材の味が強く感じるね」、「「ゆきつぶら」は、見た目が白く具材と混ぜると、

「男爵いも」より滑らかに感じる」など多くの感想を頂き、品種名もしっかり覚えてもらいました。

地域ぐるみの直売活動の発展

担当：北支所 地域第二係



この危機を打開するため、日ノ出地区の人々は、農産物の直売活動に活路を求め、まずその一歩として、赤井川村で年一回開かれる一大イベント「カルデラの味覚まつり」に参加することを決め、日ノ出地区の区会に直売実行委員会を設け、取り組みを始めました。



区会員や未出荷者も参加して地域ぐるみの直売活動となり、農家に自信と意欲が生まれました。

「カルデラの味覚まつり」出店2年目の今年は、品目を増やし、売上が55%増加しています。さらに日ノ出地区では、常設の直売所の開設が計画されており、普及センターはその支援をしていきます。

赤井川村日ノ出地区の農業は、露地野菜を中心に、水稲、花きなど生産品目が多岐にわたり、村が振興作物と位置づけるブロッコリー、そらまめ、トルコギキョウを生産する赤井川村農業の典型的な地域です。ここでも高齢化が進み、地域の人々は集落の維持に危機感を感じています。



普及センターは、この取り組みにはじめから関わり、イベント販売に向け、栽培品目の調整、作付計画作成の支援、えだまめ・スイートコーンなど直売向け作物の栽培指導、POPや食べ方レシピの作成、生産者ラベルによる出荷物管理や手数料設定の提案など、生産と販売の両面から支援しました。「まつり」では、非農家の

